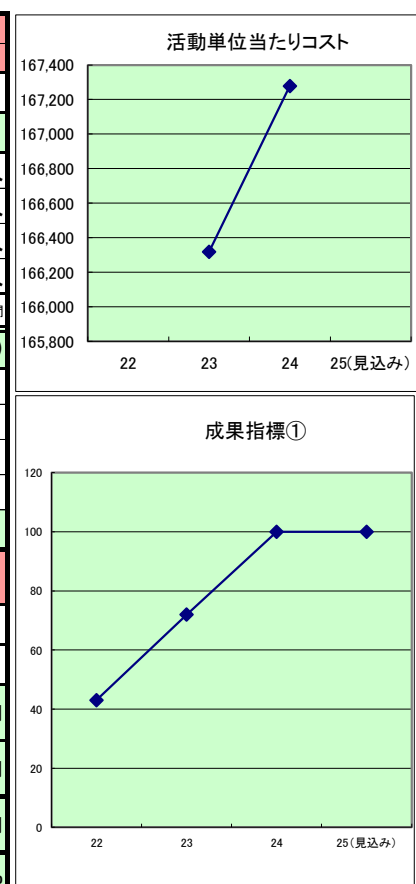


事務事業名		交通安全施設等整備事業(市道郡戸古市線)		会計 1 一般会計 款 8 土木費 項 2 道路橋梁費 目 4 交通安全施設整備事業費 事業 51 交通安全対策第1種施設整備	作成部署		土木部道路課	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		(連絡先)		072 - 958 - 1111 内線 2221	
	施策(節)	9	道路交通					
	施策の方向	(2)	計画的な道路整備と維持管理の推進					
関連する計画等								
事業の概要(目的・内容)		工事延長 L=523m W=2.5~3.5m 平成21年度 L=224m 交差点改良 1箇所 歩道改良(バリアフリー化) 平成22年度 地元近接工事の進入路と重複する為に順延 平成23年度 L=154m 歩道改良(バリアフリー化) 平成24年度 L=145m 歩道改良(バリアフリー化)						
根拠法令等		高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律						
事業期間		☐ 年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☒ 5年未満(平成 20 年度開始)						
事業開始時からの状況変化								
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称) ☐ 民間委託 ☐ その他					委託内容	

区 分		22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		0	22,373	23,053	
人件費【2】 (千円)		0	3,240	1,035	0
職員数	正規職員	人	0.45 人	0.15 人	人
	再任用職員	人	人	人	人
	嘱託職員	人	人	人	人
	臨時職員	人	人	人	人
超過勤務(参考) (時間)		0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費【(1)+(2)】【A】 (千円)		0	25,613	24,088	0
財源内訳	国庫支出金 (千円)	0	6,760	9,900	0
	府支出金 (千円)	0	0	0	0
	市債 (千円)	0	0	0	0
	その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0
一般財源【B】 (千円)		0	18,853	14,188	0
活動指標(事業の活動実績)【C】 単位		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)
① 道路整備延長			154	144	
②					
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①) 円		166,318 円	167,278 円		
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】) 円		122,422 円	98,528 円		
市民1人当たりコスト (【A】÷人口) 円		219 円	207 円		
一般財源【B】の推移(前年度比)				▲ 24.7 %	▲ 100.0 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ) ☒		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記1によらない対象件数などの増減 ☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減 ☒ 5. その他(完了した為)			
※該当項目すべてに ☒					



成果指標	指標名		平成22年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	① 整備率	%	目標	43	72	100	100
	(式又は説明) 整備延長÷工事総延長×100		実績	43	72	100	
	② 総事業費に対する整備済事業費	千円	目標	83,939	83,939	83,939	83,939
			実績	38,511	60,885	83,939	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
		○		○	○				○	

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	歩道のバリアフリー化を進める上でも妥当な事業である。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	計画どおり行っている。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない		☒	☐	☐		
民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）		☒	☐	☐		
協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☐	☐	☒		
有効性 達成度	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	バリアフリー化を進めて行く上にも有効な事業である。	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 継 続 ☐ 改 善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止 （概ね現行どおり継続して実施） （実施方法の改善を検討する） （事業規模の縮小を検討する） （廃止・休止を検討する）	
	今後に向けて（取組方針・具体的な改善改革案など） 八尾富田林線整備事業(大阪府)の一部開通に至った事もあり市道郡戸古市線交通安全施設等整備事業としては事業目的を達成できた。	
行 革 本 部 評 価	総合評価	
	☐ 継 続 ☐ 改 善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止	
	評価理由・意見	